

■ご挨拶

監事就任に際して

日本風力発電協会 監事 **小林 一誠**
日立造船株式会社 風力発電事業化推進室



はじめに

平成27年5月の定時社員総会で承認いただき、監事を務めることになりました日立造船の小林です。前任者の当社の鈴木監事の後を継ぐこととなりますが、協会発展のため頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

自己紹介

1977年に日立造船のプラント設計部に入社し、化学および石油化学プラントの設計業務に10数年、その後プロジェクト部へ転属、プロジェクトマネージャー(以下、PM)業務に約10年従事しました。

2003年、当社茨城工場に10万kWのガスタービン発電設備(以下、GTCC)を建設することになり、そのPMに任命されたのがエネルギー事業に携わる転機となりました。同設備は東京電力への電力卸供給事業の3号機目で2006年に運開しました。2009年には茨城工場長兼発電所長とし2012年まで茨城に赴任しました。

【閑話】

出身は福岡県です。日立造船入社後はずっと大阪在住ですが、いまだに“九州なまりの抜けない、エセ関西弁”と周りには言われています。プラントエンジニアの宿命で、出張も多く家庭を留守にした期間が長く、家族には“母子家庭”と言われています。蛇足ながら、イラク2年、横浜2年、タイ1年、茨城5年が主な長期出張です。関西弁が下手な一因はこれかもしれません。

風力発電との関わり

東日本大震災後、原発全停止による電力不足の解消の切り札として再生可能エネルギーの伸長が叫ばれる中、周知のように2012年再生可能エネルギーの全量固定価格買取制度(以下、FIT)が制定されました。当社も再生可能エネルギーの伸長を目指し、風力、バイオマス及び太陽光の発電事業を事業化する部門として、2013年1月に“電力事業推進室”が設置され、その室長に任命されました。これが、風力発電との関わりで、それまで営業と設計部門で進め

ていた風力ビジネスを、その案件創出から事業性評価、事業化決裁、SPC設立までを責務とします。まだまだ日も浅く、現在までに事業化に至った案件は3件で、いずれも小規模ですが、うち1件は本年3月より営業を開始しました。他2件は現在建設中および準備中です。

【閑話】

プラント時代は、海外出張も多くまた東北地方への業務出張の機会もなく、風力事業に携わる以前までは、恥ずかしながら仙台以北は未踏の地でした。風力に携わってからは、秋田、青森に行く機会も増え、地元の皆様の人情味のある人柄、最高の地酒とそれを一層あおる新鮮な海鮮料理に出会え、大変喜んでいました。ちなみに、最北端は尻屋崎となりました。そうです、北海道は目前です！

当社の風力発電への取り組み

1999年、当社風力事業進出の為、エコテック社(西)とアライアンス締結、2001年当社系列の伊東カントリーに1号機(650kW)を建設しました。同機は残念ながら、日本独特の風況による各種のトラブルが発生、採算悪化で2005年に撤去、同社との契約も解消しました。2005年にはGE社製(1,500kW)を広川町に建設、2006年にはユーラスエナジージャパン殿とガメサ社製(2,000kWx6機)を下北半島の尻労に建設しました。それまで、発電事業者というよりはEPCを主体とした位置付けでしたが、前述の様にFITを追い風に軸足を発電事業者へシフトしました。また、今年4月に、今後期待される洋上風力発電を伸長させるべく、陸上・洋上を統合し“風力発電事業化推進室”が発足しました。

おわりに

私自身、非常に浅い風力発電との関わりで、知見も経験も十分ではございませんが、厚顔にも監事に就任させていただきました。監事役を全うできるか少々不安もありますが、協会発展の為懸命に努力しますので、ご支援・ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。